

五 実行委員編集後記

小餅 友子

戦地での体験、銃後の生活、また戦後のさらなる苦勞など、様々な意味で戦争を体験した方々の貴重な記録です。そしてそのすべてに共通して、「二度とこのような戦争をしてはならない」との思いが詰まっています。戦争の放棄・戦力の不保持・交戦権の否認をうたった「日本国憲法」が日本にあることが、どれだけありがたい事かと改めて思い直します。そして世界のどこの子供たちにも幸せがきますようにと願わずにはいられません。

牛田 守彦

今回、戦争体験記録集第 集の編集を少しだけお手伝いさせていただきました。戦後67年が経過し、生々しい戦場体験の記録は少なくなりましたが、多くの貴重な戦時体験の記録が集まったのではないかと思います。よくぞ今日まで生きて来て下さったと思わずにはおられない過酷な体験談もあり、体験のない世代として、平和の大切さを改めて噛み締めています。近隣アジア諸国との緊張関係が高まっている今だからこそ、戦争だけは絶対許してはならない、という思いを新たにしました次第です。平和

と友好の懸け橋を築いていくことに少しでも貢献できればと思います。昨年11月24日が「武蔵野市平和の日」となりました。これからも、この日を一つのきっかけとして戦争の悲惨さと平和の大切さを心に刻む機会とすることを強く希望します。

柴田 フミノ

戦後67年を経て戦争を知らない人が全人口の八割強を占めるとのこと。平和で豊かな日々です。以前戦争に関するパネル展を開いたとき、大学生の「過去の日本はアメリカと戦争をしていたんですか？」との問いに、ただ、驚きました。学校では、歴史を教えていないのでしょうか。学校教育では、日本がやられたこと、やったことを正しく教えてほしいと思います。

昭和12年7月に盧溝橋事件が起き、日支事変へと突入し、時代は戦争一色に塗りつぶされました。富山、新潟、秋田、福島各県から10代の農家の少年たちが、国策で、義勇軍として大陸の開拓及び国境の警備役も担わされ、2ヶ月余の訓練ののち、東京駅から夢や希望に胸をふくらませながら、満州へ、大陸へと日の丸の小旗に送られていきました。

日本の敗戦で満州国は崩壊し、ソ連軍が侵攻してきた

のです。勇ましく出発した少年たち（終戦の時は、20歳前後です。）は、死ぬほどの苦しみを味わったことでしょう。少年たちはただただお国のため、天皇陛下のためとの思いで、大陸へと向かったのです。あの少年たちのうち幾人が、故郷の土を踏むことができたのでしょうか。全滅したかもしれないと思うと胸がしめつけられる思いがします。

私自身の戦争体験は、昨日の出来事のようにも思えませんが、遠い日の出来事のようにも思えます。徹底した軍事優先の制圧下におかれまして日々を過ごしておりました。日支事変から太平洋戦争へと広がり、将来のある若い命、夢も希望もあつた大切な命を失いました。南方、沖縄、中国で戦死した人や日本国土への空襲で失った命は、310万を超すと聞いております。

どうぞ戦争のない平和な世界がいつまでも続きますように。戦争には正義はございません。

戦争体験記録集第 集が出来ますことを、心より喜んでおります。ありがとうございます。

菊地 圭永子

今年度、戦争体験記録集第 集を発行することができ
感無量です。

体験者の高齢化に伴い。実行委員会では精力的に聞き取りに取り組んでおります。

体験者の方々の話からは、一貫して「戦争は二度と起こしてはいけない」という願いを、また、戦中・戦後の悲惨な時代を生き抜いた逞しさ、実体験からくる力強さを感じずにはいられませんでした。それを記録として残し、次世代に伝え繋げること、それがバトンを受け取った私の役目であると思いました。

お話を伺っていて気が付いたことは、「戦争は、人を被害者にもするが加害者にもする」ということです。戦争が起きて、自分の子どもが被害者になることを想像する親がいても、加害者にもなりうることを想像できる親はどれほどいるでしょうか？

武力や暴力、排除や反発で争いを解決するのではなく、日々の暮らしの中で自分自身の足元や心持ちをしつかりと見据え、他者と手を携えることが「平和」への第一歩となるのではないのでしょうか？

さて、実体験のない私がどれだけ伝えることができるのでしょうか？私自身の宿題です。「戦争が起きていない「平和」という括りでは語れない現状の社会の中で、平和発信の難しさを痛感しつつ、宿題に取り組んでいきたいと思えます。

平成 24 年度 武蔵野市非核都市宣言平和事業実行委員会 委員

団 体 名	氏 名
武蔵野市コミュニティ研究連絡会	小 餅 友 子
武蔵野市立小中学校PTA連絡協議会	今 井 尚 子
武蔵野市老人クラブ連合会	高 橋 進 午
成蹊大学 学生	渡 邊 美 月
成蹊大学 学生	佐 藤 文 子
武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会	牛 田 守 彦
世界連邦運動協会 武蔵野支部	中 里 崇 亮
武蔵野けやき会	柴 田 フミノ
武蔵野市国際交流協会	藤 谷 純 子
公募委員	稲 葉 和 高
公募委員	菊 地 圭永子
公募委員	中 島 秀 文
公募委員	松 村 勝 人
公募委員	山 本 輝 子